

# 輝く水面 休耕田復活

## 岡谷市三沢区 子どもら体験 20年ぶり田植え



素足で田んぼに入り、田植えを楽しむ子どもたち

岡谷市川岸上の休耕田で29日、約20年ぶりの田植えが行われた。地元三沢区(山之内寛区長)とNPO法人農と人とくらし研究センター(片倉和人代表)などが、青少年健全育成と耕作放棄地解消を目指して再生した。子どもたちが素足で田んぼに入り、手作業で苗を植え付けた。(唐沢宏)

岡谷市川岸上の休耕田(約1500平方メートル)を同センターが受けたことから、個人所有の休耕田(約1500平方メートル)を借りた。休耕田は高尾山のふもと、標高約800メートルに階段状に連なる田んぼの一つで、通称「明王の棚田」と呼ばれる。20年ほど耕作放棄され、主な管理は毎年の草刈り程度だったという。4月末からあぜの整備に取り掛かり、4回ほど水漏れ箇所を補修した。

田植えには園児から小学5年生までの約35人が参加。1列に並び、「ユメシナノ」という品種のイネを15センチ間隔で植えた。子どもたちは「変な虫がいる」「オタマジャクシだ」「ぬるぬるして気持ちいい」などと歓声を上げ、手や足を泥にだらけにして喜んでいった。技術指導を担当する同センターの林弘巨さん(67)は「岡谷市川岸上は、自然や植物、動物とのかかわり、稲に欠かせない水を利用するときのルールなど、お米作りを通じていろんなことを知ってほしい」と話した。子どもたちは今後、草刈りやかかし作り、稲刈り、収穫祭などを体験するという。